

2015年10月10日 沖縄国際大学

日本語教育学会2015年秋季大会 パネル・セッション

外国人児童のリテラシー発達を支援する —作文分析の結果を受けて—

齋藤ひろみ(東京学芸大学教育学部)

森篤嗣(帝塚山大学)

岩田一成(聖心女子大学)

中村和弘(東京学芸大学教育学)

池上摩希子(早稲田大学)

H26-29 科学研究費(基盤B) 課題番号26284071 代表:東京学芸大学齋藤ひろみ
研究課題:地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究

0. 出発点 作文例 小6(日本生育外国人児童)

小学校生活最後の全校遠足は全校遠足だとは思えなかったけど一年生とたのしく「自然をさがそうよ」ビンゴをできて一年生ともっとなかよくなれてはじめはなんもはなさなかったりあまり仲よしじゃなかったけどこんかいの全校遠足で一年生となかよくできて昼ごはんのときもなかよくはなせたし、しぼとりでたのしくあそんだりできて仲がふかまたと思うし、大なわのときは2人で大なみをとんだときはできなかったけど小なみのときはいきがぴったりでとんでできたからやぱりたのしくできたと思う。

たぶん全校でいしょにかつどうしてたら一年生ともそんなに仲よくなれないかもしれないけどこんかい一年生と六年生でかつどうしたからいつものりたのしい全校遠足になたと思うし、いしょのペアじゃない人ともなかよくなれたしやぱりたいへんだったけどそのたいへんさで一年生となかよくなれたから一年間やていけると思う

つぎいしょに活どうするときがきたらちゃんとめんどうをみたりたのしいしょにあそびたい。

この児童は、おしゃべりには問題はないが、この作文からは日本語の発達に課題があると考えられる

産出量、表記、文法、文の構造
文章・段落・構成、文と文のつなぎ方

+

話しことば、語彙・表現の選択

+

内容の組み立て方

この実態を可視化し、それに基づき「ことばの力」
の発達を支援することが必要

1 パネルの目的と構成

外国人児童生徒の子どもたちの「ことば(日本語)の力」を

文化間移動をし、
多様な言語文化背
景をもつ子どもたち
が、暮らし学び成長
するためのリテラ
シーとして捉え直す

発題1 齋藤ひろみ

作文分析の結果
を、リテラシー教
育・支援の内容・
方法決定のため
の資料として分析

発題2 森篤嗣

分析結果を基
に、「話しことば
⇔書きことば」に
着目した作文分
析ツールの開
発・分析

発題3 岩田一成

子どもたちのリテラシーの発達を

学校の教育課程で促すための活動(国語科を例に)

発題4 中村和弘 + ディスカッション

2. 背景①

リテラシーとは？

読解リテラシー(PISA定義)

「自らの目的を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、活用し、深く考える能力」 タイチェン・サルガニク(2006)

OECDのキーコンピテンシー

- ・相互作用的に道具を用いる
- ・自律的に活動する
- ・異質な集団で交流する

道具

- 言語・シンボル
・テキスト
- 知識・情報
- 技術

評価のために具体化した能力

- 文書読解力
テキスト(文書+表・グラフ)
- Numeracy(数的処理・思考力)
- 問題解決の能力

2 背景②

実態調査

母語と第二言語の発達の調査

中島(2011) OBC 口頭能力

生田(2006) 作文

日本語習得の調査

松本(2000他) 文法中心

西川他(2014) 語彙調査

リテラシー力の発達の可視化

実践研究

川上(2009)

リテラシー＝移動する子どもたちが主体的に学び考える「ことばの力」

リテラシーに焦点化し、教科学習に関連付けた学習支援を展開

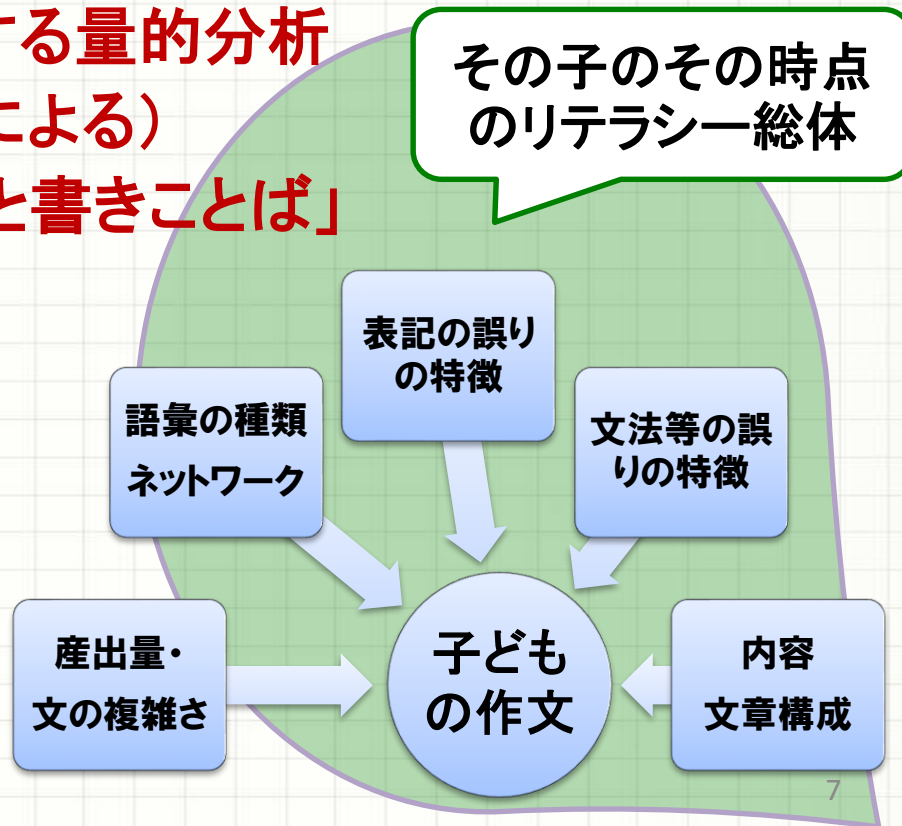
教育内容と方法の提案

学校の教育課程で
(教科教育等で)
外国人児童の
リテラシー発達を支援

2. 背景③ リテラシーの可視化…齋藤の科研 —作文の多面的な分析—

- ① 作文の産出量・文の複雑さに関する量的分析
- ② 語彙の分析(テキストマイニングによる)
- ③ 表記の誤りの分析→「話しことばと書きことば」
- ④ 文法等の誤りの分析
- ⑤ ルーブリック評価による内容分析
- ⑥ エピソード分析による
内容構成の分析

↓
子どものリテラシー発達の状
態を捉えるための情報



3. 外国人児童の作文の調査結果

(1) 学校・児童

- ・外国人が集住する地域の小学校
- ・現在、全校児童(約160人)中
外国人児童は75%強
- ・日本生まれの外国人児童が80%強
母国生れの児童の約70%は
就学前来日
- ・ベトナム1/2、中国が1/3、
その他にカンボジア、ラオス、ブラジル、フィリピンなど

(2) 作文データの収集

- ・2-6年の全校児童の作文
- ・「全校遠足」に関する出来事作文
- ・指導は入っていない
- ※横断調査＋縦断調査

(3) 分析対象の作文(発題1で紹介する縦断調査)

当該小学校の児童の作文(2-6年の5年分の作文)

外国人 33人 : ベトナム20人 中国5人 カンボジア5人
ラオス2人 フィリピン1人

※31人:日本生、2人:4歳未満来日…日本生育外国人児童

日本人 14人

計47人

	外国人児童(F)	日本人児童(J)	計	作文数
2007年入学	17人	7人	24人	120
2008年入学	16人	7人	23人	115
児童数	33人	14人	47人	
作文数	165	70		235

出来事作文
≡「記録文」
日本国語教育学会
(2001)

(4) 分析方法

①量的分析 産出量・文の複雑さ

産出量:有効文字数

使用漢字数(のべ)

文の複雑さ:

1文あたりの平均文節数

複文割合

②質的分析 内容評価

(ルーブリックによる評価)

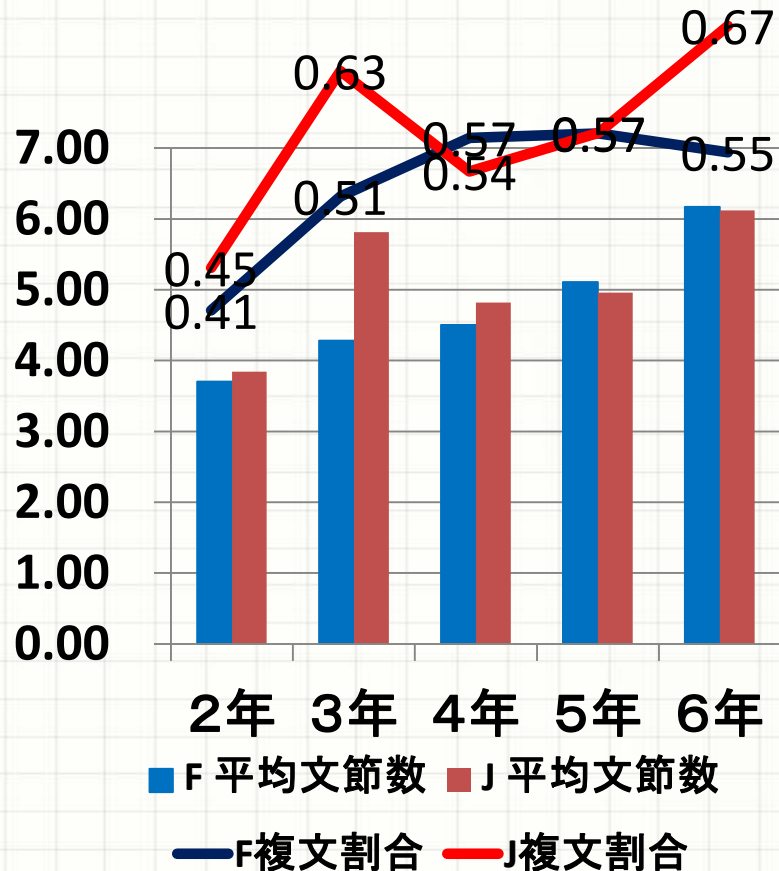
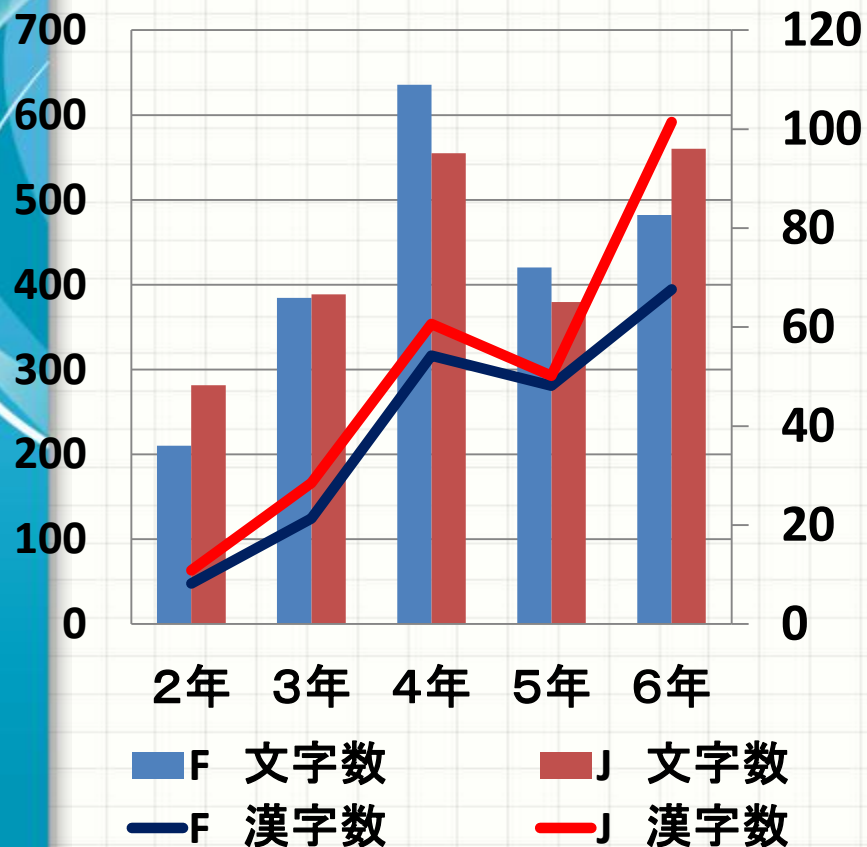
6項目(右表) 各5点満点

3名(日本語教師)で評価し

平均値を求める

ルーブリックの評価項目	
構成 関連 項目	①文と文のつながり(結束性)
	②段落と文章構成
内容 関連 項目	③出来事
	④状景描写
	⑤心情や考え
総合	⑥バランス

(5) 分析結果① 産出量と文の複雑さ



(5) 分析結果② 内容評価(2項目) 「段落・構成」と「心情・考え」

評価得点

4.00

3.50

3.00

2.50

2.00

1.50

1.00

2年

3年

4年

5年

6年

F 段落・構成

J 段落・構成

2年

3年

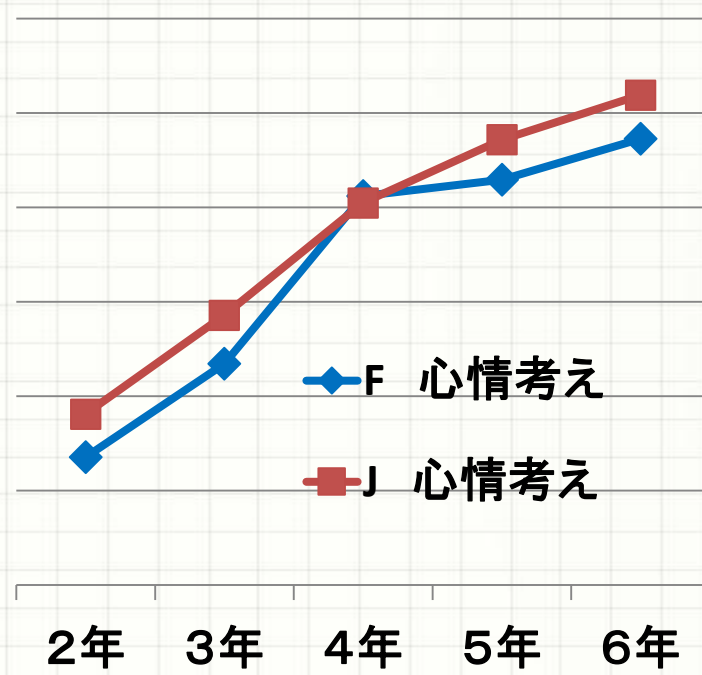
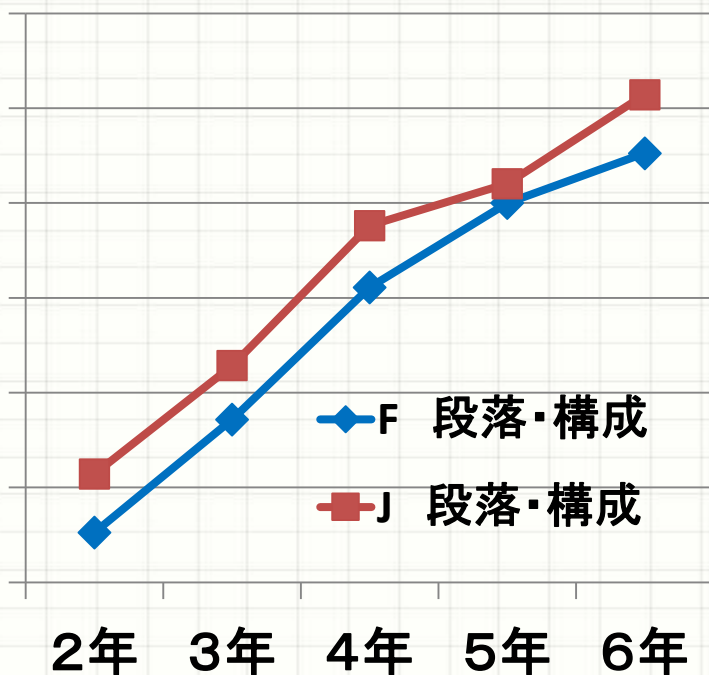
4年

5年

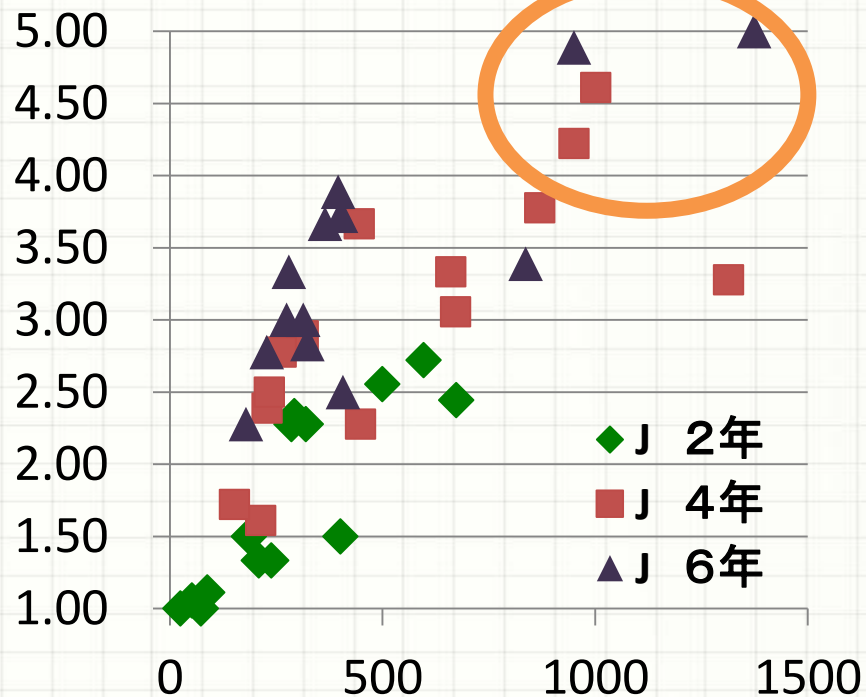
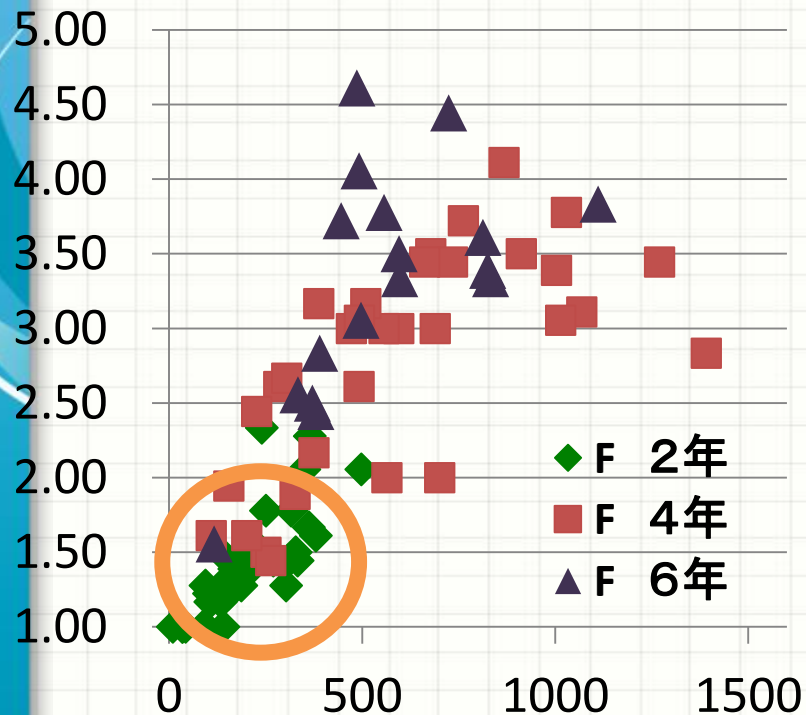
6年

F 心情考え

J 心情考え



(5) 分析結果③ 内容評価と産出量(文字数)



4 外国人児童のリテラシーの発達の課題

産出量: 産出量は中学年で日本人児童と同等

文の複雑さ: 高学年で日本人児童との間に再び差

文章構成: 日本人児童からは遅れ

内容: 心情・考えを表現する力が、高学年で再び差

★リテラシーの「言語・シンボル・テキスト」の**知識・技能の一側面**を捉えた結果

使用語彙の分析…社会参加と認識の変容という視点から

話しことば・書きことば…相互作用のためのテキストのタイプとレジスターの調整という視点から

外国人児童の「作文を書く力」の発達には、日本人児童とは異なる課題がある → 適した支援が必要

全体討論における論点

- 1 外国人児童生徒のリテラシー発達の課題は何か？
「社会参加、目的達成、発達の可能性」という視点で「ことばの力」を分析することで、これまでとは異なる捉えができるのでは？
- 2 ことばの力を可視化した結果を、学校におけるリテラシー育成のための教育活動にいかに反映できるか。
- 3 学校の教育課程(教科教育を中心に)において、多様な言語文化背景をもつ子どもたちへのリテラシー発達を促す教育を実施するには、何が課題であり、それをどう解決するか。

メインストリーム（在籍学級での教科教育において、リテラシー発達を促すには…

◇教室内の活動を、児童にとっての目的化、社会的文脈との関連付け→可能性の実感

◇教科の内容・単元の目標と指導事項・言語活動についての理解に基づく、厳選

◇道具としてのことばを、言語・シンボル・テキストを意識的に選択・使用

実践事例

取り出しの国語科指導

小牧市立大城小学校 伊藤敦子先生の実践

「日本語を学ぶ子どもたちへの国語科」『ちいちゃんのかげおくり』の実践
『言語教育実践 イマ×ココ』第3号 pp.32-37

国語科 小学3年生

「ちいちゃんのかげおくり」光村図書

DLAによる測定 → JSLカリキュラム

- ・読書経験が少ない
- ・会話の認知タスクが十分にできない
- ・語彙が乏しい

国語科「ちいちゃんのかげおくり」

○人物の行動・場面を理解し、気持ちを考える

○主人公の状況を読み取り、考えたことを書く

- ・視覚的補助(登場人物の絵、戦争・空襲のDVD)
- ・リライト教材の ⇒ 教科書
- ・各場面の登場人物を捉えさせる…主人公の状況を理解
- ・語彙・表現(気持ちを表す)の提供
- ・一人で考えたあと、ペアで話し合う





支援1 リライト教材→教科書

- 25 ちいちゃんは、目がさめました。
- 26 お父さんやお母さんの声が聞こえてきました。
- 27 ちいちゃんは、一人でかけおくりをしました。
- 28 ちいちゃんは、四人のかけを見ました。
- 29 ちいちゃんの体が、空に上がりました。
- 30 ちいちゃんは、花畑にいます。
- 31 ちいちゃんは、三人の方へ走っていきます。

支援2 段落ごとに登場人物を確認する



ちいちゃんの気持ちを絵とことばで表現する

<p>ちいちゃん</p>	<p>ちいちゃん おばさん</p>	<p>おじさん ちいちゃん おにいちゃん おかあさん おきなさん</p>	<p>④ちいちゃん ③おにいちゃん おとうさんのおかあさん②</p>	<p>でてきた人</p>
 <p>とてもうれしい</p>	 <p>しょんぼり</p>	 <p>かなしい</p>	 <p>うれしい</p>	<p>気持ち</p>

場面3 (リライト教材提示場面)でのやりとり

T:ここに出てきた人はだれ。教えてくれる。

C:ちいちゃん

C:お父さん

C:お母さん

T:お父さんやお母さんはいる？

C:声が聞こえた。

C:声が聞こえたって書いてある。

T:うん、声が聞こえたんだよね。でも、声だよね。見えたの？

C:ううん、でも声が聞こえた。

C:お父さんやお母さんの声が聞こえてきましたって書いてある。